会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（矢畑自治会）
2　日時	平成 30 年 7 月 14 日（土）10：00～11：00
3　場所	矢畑自治会館
4　出席者	（資源循環課）森岡担当主査、永井主任 （環境事業センター）安齋担当主査、門倉副主査 （矢畑自治会）参加人数：１２人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●家庭ごみ有料化が導入されると、指定されたごみ袋の購入費用とは別に費用はかかるのか。 →指定されたごみ袋の購入費用のみをご負担いただくことになる。現にホームセンター等でごみ袋を購入していただいている方は、それが市の指定したごみ袋になる。または、無料のレジ袋等で排出している方は、新たな費用をご負担いただくこととなる。 ●戸別収集を行うにあたっては、どのような形でごみを家の前に置いとくことが想定されるか。 →排出場所については、道路に接している敷地内に排出していただくことが考えられる。また、排出方法については、カラス対策として、ネットやポリバケツを用いて排出していただく方法が考えられる。実施の場合は、排出方法等について案内していくことになるかと考えている。 ●茅ヶ崎市のごみ処理経費が高い理由は。 →収集運搬に係る費用が多くを占めていることが、本市の特徴である。 ●堤の最終処分場が使用できなくなることを想定して、他市への排出はどれぐらい検討されているのか。 →他市への灰の排出は現在も一部行っている。約 70%が堤の最終処分場で処理され、残りは資源化や、他市への排出になる。資源化の費用は１ｔ当たり約５万円かかっている。 ●最終処分場は、満杯になるから使用できなくなるのか。 →地元の約束でその使用期限を迎えることによるものである。 ●家庭ごみの有料化を進めた場合、どのくらい収益が見込めるのか。 →資料のとおり、他市の実績を用いて茅ヶ崎の人口で算出すると、概算ではあるが、約２億円の収益が見込めると考えている。

	●この不景気の中で、新たな負担を市民に強いるのはどうかと思うが、今日の説明を聞くと有料化についてはやむを得ないとも感じる。また、紙の分別の啓発は最優先事項ではないか。 →有料化を実施した場合は、新たな家庭への負担を避けることはできない。その前に市が取り組めることは、積極的に行っていく。そのひとつとして紙の分別にかかる啓発は優先的に行っていきたいと考えている。 ●家庭ごみの有料化を実施した場合の歳入で、戸別収集の費用を賄うことはできるのか。 →現在試算中であるので、具体的にお示しできない。その試算した経費が、実施の判断のポイントになるかと考えている。 ●家庭から排出されるごみの２５％が資源化可能とのことだが、今後、更なる啓発活動は検討しているのか。 →ごみの分別等に興味がない方々に、どのように啓発していくのかが課題と認識している。今まで実施してきた啓発活動は引き続き実施していくが、新たな手法として、アプリなどを用いて、普段市の広報誌等を見る機会がない方々へアプローチしていきたいと考えている。 ●指定した袋を使わずして排出されたごみはどうするのか。 →基本的に収集しない。適切に排出している人にとって不公平になる。しかしながら、衛生面等を考えると収集せざるおえないとも考えている。 以上